



食鳥解体の実演を見ながら、仕事について学ぶ生徒

仕事するということは 業界の現状、業務内容は

大人への意識高める

岩手県立久慈東高校
(金澤広利校長)で11月30日、文部科学省の復興教育支援事業である「高校生の仕事学びプロジェクト」が「シヨブスタ」

久慈東高1年生
「シヨブスタ」

スタ二が行われ、1年生約200人が地元で働く社会人から仕事について学びながら、大人になることへの意識を高めた。

(水野大輔)

☆☆☆☆

国から委託された川崎市のNPO法人キー

地元企業担当者から学ぶ

バーソン21と二戸地域雇用開発協会の主催。岩手県立大の学生たちがアシスタントとして支援した。

生徒たちは自らの関心や興味を探る診断などを受けた後、久慈城粕(こはく)や岩手モリヤ、岩本電機など久慈地方の8企業、団体ごとに分かれ、担当者から業界の現状や業務内容、仕事のやりがいなどを学んだ。

このうち、十文字チキンカンパニー久慈工場グループでは、食鳥を解体する実演も行われ、鮮やかに肉をさばく作業を間近に見た生徒たちは、興味津々の様子だった。